

説 教

「棕櫚の日曜日」 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2019年4月14日（日）

主 題：「ホサナ。祝福あれ！」

—イエスの時—

テキスト：ヨハネ 12章 12～19節

はじめに

1. 世界のどこへ行ってもあるものの一つは、「お祭り」です。しかも、祭りは「祭儀」と「信仰」につながりがあるものが多いようです。
 - ・4月14日（日）、北浜チャーチではサンデースクールの子どもたちに、「北浜キッズ」という「春の祭り」が開かれます。もう既に定番になっている好評の、「春の祭り」です。それはイースターの祭りでもあります。イースターとはイエス・キリストが十字架にかかり死なれ、三日目に復活された日を記念する祭りです。
 - ・ところで、そのイースターの1週間前、イエス・キリストはエルサレムの都に入城されました。その日を教会歴では、「棕櫚の日曜日」(Palm Sunday)と呼びます。今年のカレンダーでは、その日が丁度今日に当たります。
 - ・そして、これから始まる週を『受難週』(Passion Week)と呼び、イエス・キリストが十字架にかかられた苦しみを覚える週であります。とくに金曜日は受難日(Good Friday)と言います。私たちの教会では、夕方7時から「受難日礼拝」を行います。そしてその次の日曜日の朝、イエス・キリストが復活されたイースターを迎えます。
 - ・キリスト教会では、クリスマスと並び大切なハイライトであります。皆さん。イエス・キリストの受難なくして、イースターはありません。したがって、私たちにとって今週は最も大切な1週間であります。

2. ところで、「棕櫚の日曜日」は全世界において記念されています。イエスがろばの子に乗り、エルサレムの都に入られた日です。その日、いったい何があったのでしょうか？

12:12 その翌日、祭りに来ていた大ぜいの人の群れは、イエスがエルサレムに来ようとしておられると聞いて、

12:13 しゅろの木の枝を取って、出迎えのために出て行った。そして大声で叫んだ。「ホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。」

 - ・人々は大声で「ホサナ」と叫び、イエスを迎えました。ホサナとはヘブ

ル語で、「今、私たちをお救いください」(save us now)という意味です。人々は手に「棕櫚の木の枝」を持って、イエスを出迎えました。それが「棕櫚の日曜日」と呼ばれる今日です。

- では、「棕櫚の日曜日」は、何を意味するのでしょうか？ なぜ、イエスは十字架という受難が待っていたのに、エルサレムに入城されたのでしょうか？ 私は今日、イエスのエルサレム入城の意義について考えたいと思います。 2点

大切なポイント

1. イエスのエルサレム入城の意義

- 私はイエスのエルサレム入城の意義を、次の3点からお話しします。

1) 入城日の意義

- イエスがエルサレムに入城された日は、ユダヤ暦のニサンの月10日でした。そこには深い意味がありました。なぜなら、ニサンの月10日には、エルサレム神殿で「過越しの祭り」で屠られる「羊」が選り分けられたからでした。そして14日まで、傷やシミが無いかどうか、吟味されることになっていました。
- 出エジプト12章には、「過越しの祭り」について、次のように書かれています。

12:2 「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。

12:3 イスラエルの全会衆に告げて言え。この月の十日に、おのおのその父祖の家ごとに、羊一頭を、すなわち、家族ごとに羊一頭を用意しなさい。

12:4 もし家族が羊一頭の方より少ないなら、その人はその家のすぐ隣の人と、人数に応じて一頭を取り、めいめいが食べる分量に応じて、その羊を分けなければならない。

12:5 あなたがたの羊は傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。

12:6 あなたがたはこの月の十四日までそれをよく見守る。そしてイスラエルの民の全集会は集まって、夕暮れにそれをほふり、

12:7 その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と、かもいに、それをつける。

- 皆さん。ユダヤ人たちは「過越しの祭り」を記念するたびに、羊を屠ってきました。しかも、その羊は1歳の雄で、傷のないものでなければな

りませんでした。イエスがニサンの月10日に入城されたことは、
⇒イエスが「過越しの祭り」の小羊として、選り分けられたことを意味します。聖書は、イエスは神の子羊と記録しています。バプテスマのヨハネはイエス見て次のように言いました。 **ヨハネ福音書**

1:29 その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」

- ・ペテロは言いました。 **1 ペテロへの手紙**

1:18 ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、

1:19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

- ・パウロは言いました。 **1 コリント人へ手紙**

5:7 新しい粉のかたまりのままにしているために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたはパン種のないものだからです。私たちの過越しの小羊キリストが、すでにほふられたからです。

- ・ですから、イエスは「ニサンの月10日」にエルサレムに入城しなければなりません。すなわち、イエスのエルサレム入城は屠られるためでした。それは ⇒「イエスの時」が来たことを示します。

- ・イエスは公生涯において、当時の社会的指導者によって何度も捕えられそうになりました。しかし、捕えられませんでした。聖書はこのように記録しています。 **ヨハネ福音書 7:30**

そこで人々はイエスを捕えようとしたが、しかし、だれもイエスに手をかけた者はなかった。イエスの時が、まだ来ていなかったからである。

ヨハネ福音書 8:20

イエスは宮で教えられたとき、献金箱のある所でこのことを話された。しかし、だれもイエスを捕えなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。

- ・愛する皆さん。「イエスの時」が来ました。⇒それがエルサレム入城、受難週の始まりでした。これが第一の意義です

* なぜ、イエスはエルサレムに入城されたのでしょうか？

第二の意義は次です。

2) イエスの都への入城は重要な「しるし」

12:15 「恐れるな。シオンの娘。見よ。あなたの王が来られる。」

ろばの子に乗って。」

- この歓喜の叫びは、旧約聖書ゼカリヤ書9章の言葉です。**9:9 シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜わり、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。**
- なぜ、ゼカリヤは「大いに喜べ」と言ったのでしょうか？
そのお方は⇒①あなたの王、②正しいお方（正義）、③救いを与える、
④柔和（謙遜）
「しるし」は ⇒「ロバに乗られる」お方でした。
- 「ロバ」は荷物運搬の大切な家畜で、とくに農作業で使われました。馬は騎動性があり戦争に用いられました。それに比べ「ロバ」は騎動性の低い動物です。「ロバ」には、くびきを負わせ作業をさせました。ですから、決して高貴な人が乗る動物ではありませんでした。今日でも、イスラエルで「ロバ」は愚かな動物（蔑称）とされています。神の御子イエスは、その愚かな「ロバ」に乗られました。⇒平和の君であるイエスにふさわしい
- みことばは、「恐れるな」と語っています。なんという幸いな励ましの言葉でしょうか。当時の王は、独裁者に近いものでした。たとえば、ヘロデ大王は、幼子イエスが誕生したと耳にした時、2歳以下の男児を皆殺しにせよと命じました。
- ですから、民衆は、王に対しては非常な恐れがありました。しかし、平和の君であるイエスは違います。神は「**シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。**」と言われました。シオンとはエルサレムにある丘のことで、エルサレムのことです。
40:9 シオンに良い知らせを伝える者よ。高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ。力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ。あなたがたの神を。」
- ところで、聖書には「しるし」という言葉があります。
「しるし」（ギリシャ語：*semeion*, セミイオン）
⇒奇跡や不思議の背後にある神の霊的意図を意味します。
それは神の指であり、大いなる証明です。
- 当時、ユダヤ人の指導者たちは「しるし」を求めました。イエスに「あなたが神の子であるなら、どんなしるしを見せてくれますか」と言いました。**マルコの福音書**
8:11 パリサイ人たちがやって来て、イエスに議論をしかけ、天からのし

るしを求めた。イエスをためそうとしたのである。

- ・ガリラヤの人たちは、イエスが5つのパンと2匹の魚から、5千人以上の人々を養った奇跡を見ました。それは奇跡を通して、イエスが現わされた「しるし」でした。またユダヤやサマリアに住む人々は、死人を生き返らされたイエスを見ました。イエスは彼らにとって、イスラエルの王でした。

- ・それを受け入れることは、「信仰」ではありませんか。イエスはヨハネの福音書でこう言われました。

10:37 もしわたしが、わたしの父のみわざを行なっていないのなら、わたしを信じないでいなさい。

10:38 しかし、もし行なっているなら、たといわたしの言うことが信じられなくても、わざを信用しなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしが父に在ることを、あなたがたが悟り、また知るためです。」

⇒「しるし」と「わざ」は信仰を生み出します。

- ・イエスはザカリヤが預言したように、エルサレムへ入城された時、確かに「ロバの子」に乗って来られました。世界の救い主は王宮から白馬に乗って現れたわけではありません。ガリラヤのナザレ村出身でした。「ナザレからなんの良いものが出るだろうか」と言われた地でした。それが神が成された「しるし」(semeion)でした。それにより、全世界の人々が神の祝福に預かるためでした。なんとという幸いではありませんか。

- このように、イスラエルの王であるお方は、正しいお方(正義)で、救いを与えるために来られ、柔和(謙遜)であるお方です。しかもそのお方の第二の「しるし」は、⇒「ロバ乗って来られる」ことでした。

* なぜ、イエスはエルサレムに入城されたのでしょうか？

第3の意義は民衆の叫びにあります。

3) 待望と期待を示す「ホサナ」

- ・民衆はイエスを迎えた時、次のように叫びました。

12:13 しゅろの木の枝を取って、出迎えのために出て行った。そして大声で叫んだ。「ホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。」

- ・この言葉は、詩篇118篇の預言でした。

118:26 主の御名によって来る人に、祝福があるように。私たちは主の家から、あなたがたを祝福した。

「主の御名によって来る人」⇒ 当時、メシア（救世主）を迎える時の呼びかけの言葉でした。

- ・イスラエルの民は、長年イスラエルの王を待望しました。助け主を待望していました。彼らは、王が自分たちの国を助け、再興してくれると待望していました。ですから、「ホサナ！」（save us now!）と叫びました。それは彼らの待望心から出た叫びでした。
- ・当時の民衆は、おそらく詩篇を意識して叫んだのではないでしょう。しかしイエスの到来は、民衆にとって王の到来として受け止めるには十分でした。イエスは天の父なる神の救いのご計画に、忠実に従われました。イエスは「過越しの祭り」の小羊とられました。イエスは忠実、従順でした。
- ホサナ！という言葉には、民衆の大きな待望と期待がありました。

- ・では民衆は、なぜイエスを「棕櫚の枝」をもって迎えたのでしょうか？イスラエルには「棕櫚の木」は多くあります。現在も「棕櫚の木」は各地で見ることが出来ます。（Foto）

① 「棕櫚の木」⇒「なつめやしの木」のことです

- ・特徴は葉の形が鳥の羽状をなしています。棕櫚の葉で輪を作り、祝い事に用いられました。
- ・ある文献によれば、紀元前2世紀ごろから、イスラエルでは「棕櫚の木の枝」を振る行為は、国家的な祝い事の際に行われたとあります。イエスがエルサレムに入城された時、民衆が「棕櫚の木の枝」を振って迎えたことは、⇒イスラエルの国を救う方は、このお方（イエス）であることを教えています。

② もうひとつ、「棕櫚の木の枝」が用いられたことには、大切な意味があります。それは、「過越しの祭り」の習慣ではなくて、「仮庵の祭り」の習慣であったことです。

- ・「仮庵の祭り」とは、チスリの月（今の9月～10月）の第15日に始まる祭りのことです。祭りは7日間つづき、最初と最後の日には聖なる会合が開かれます。これは、その年の収穫を感謝し終わりを告げる祭りです。そして、イスラエルの民が荒野を放浪したことを記念する祭りでもあります。人々は木の枝で作った仮小屋に住み、祭りを記念します。現在でも「仮庵の祭り」は行われています。

（レビ記23：39～43、民数記29：12～38節参照）

- ・民衆は「ホサナ」と叫びましたが、これは「仮庵の祭り」の時に唱える言葉です。つまり群衆は、イエスのエルサレム入城を、「仮庵の祭り」

との関連で見ていたことが分かります。では、なぜ群衆は「仮庵の祭り」を意識したのでしょうか？ ⇒理由は聖書預言にあります。

- ・旧約聖書ゼカリヤ書14章16～21には、神が終わりの時に世界を支配される千年王国について書かれています。その「仮庵の祭り」が、千年王国（メシア的王国）の姿を予表するものとして描かれています。群衆は、イエスが神の国（メシア的王国）を直ちに建ててくださると信じ、期待しました。
- ・重要なことは秋の祭りである「仮庵の祭り」の前に、春の祭りである「過越しの祭り」が来ることです。「過越しの祭り」こそ、小羊であるイエス・キリストを屠る（十字架の死）ことを予表しています。すなわち、「棕櫚の木の枝」を手に、ホサナと叫ぶ「仮庵の祭り」の前に、「過ぎ越しの祭り」、エルサレム入城が起こらなければなりませんでした。
- ・このようにイエスのエルサレムの都への入城には、深い意義がありました。では、私たちは「棕櫚の日曜日」に、何を学ぶのでしょうか？

⇒ 聖書の信憑性

2. 聖書の信憑性（確かさ）

- ・聖書が語るイエス・キリストは、メシア（救い主）です。

聖書：イザヤ書

40:8 草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」

- ・聖書のみことば、信じるに十分値するものです。「棕櫚の日曜日」に、民衆はイエスを大歓迎し迎えました。しかしその真意は、弟子達でさえイエスの意図を理解しませんでした。

12:16 初め、弟子たちにはこれらのことがわからなかった。しかし、イエスが栄光を受けられてから、これらのことがイエスについて書かれたことであって、人々がそのとおりにイエスに対して行なったことを、彼らは思い出した。

- ・彼らはそれを理解したのは、イエスの復活後でした。それは聖霊降臨（使徒の働き2章）以降でありました。
- ・皆さん。人には自分が見たいことしか見ないという性質があります。民衆は期待しました。弟子たちも期待しました。彼らの心はどこにあったのでしょうか？
- ・地上的王国を求めた民衆は、この同じ週にイエスを見捨てて離れてしまいました。彼らはどこを見ていたのでしょうか。「棕櫚の日曜日」の真意を理解できたのは、イエスが十字架の死と復活（栄光）を受けられた後で

した。

- ・愛する皆さん。私たちは何を見ているのでしょうか。
そして私たちの心は、何を見ているのでしょうか。私たちの心は、今どこにあるのでしょうか。今日は、「棕櫚の日曜日」です。私たちは聖書の神にどんな応答をする者でしょうか。

ま と め

主 題：「ホサナ。祝福あれ！」

—イエスの時—

- ・今日、私たちはエルサレム入城の意義について考えました。
イエスは十字架での処刑という苦しみが待っていましたが、なぜエルサレムの都に「ロバの子」に乗って入城されたのでしょうか。 2点

1. 聖書のみことばが成就するため

- ①それはニサンの月の10日でした。
- ②預言者ゼカリヤが語ったように、イエスは「ロバの子」に乗ってエルサレムの都に入城しました。
- ③民衆の期待は、地上の王国建設にありました。

2. 聖書の信憑性を示すため

- ・聖書は今日も、私たちに語りかけてくれています。
私たちは受難週を迎え、どんな期待を持ってイエスをお迎えするのでしょうか。

* God bless you!